

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 07010010

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育て・子育ての充実	事 業 優 先 度	A		
単位施策	2	「子育て」支援の強化	政 策 事 務 分 類	2	単独自治事務(個別計画)	
事業名	放課後子どもプラン推進事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 年 課	7	児童センター	
事業主体	雄武町		関 係 課	12	教育委員会教育振興課	
事業指標	年間開設日数、利用者数			5	保健福祉課	
事業目標	306日	10,000人	ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	有	行事への参加	関係例規・法令名	有	放課後子どもプラン推進事業実施要綱	
町民協働			関係個別計画名	有	雄武町子ども・子育て支援事業計画	

全 体 計 画		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	放課後児童健全育成事業 行事体験活動 クラブ活動 異年齢との交流	行事体験活動 クラブ活動 異年齢との交流	行事体験活動 クラブ活動 異年齢との交流	行事体験活動 クラブ活動 異年齢との交流	行事体験活動 クラブ活動 異年齢との交流	行事体験活動 クラブ活動 異年齢との交流	
	事業費(千円)	30,770	6,154	6,154	6,154	6,154	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	8,025	1,605	1,605	1,605	1,605	
	道支出金	8,025	1,605	1,605	1,605	1,605	
	地方債	0					
	その他	75	15	15	15	15	
	一般財源	14,645	2,929	2,929	2,929	2,929	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,155	6,066	6,089	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	3,767	1,837	1,930			
	道支出金	3,767	1,837	1,930			
	地方債	0					
	その他	20	10	10			
一般財源	4,601	2,382	2,219				
関 連 事 項	特定財源の名称	【 評 価 ・ 実 績 】	(実施内容等) 放課後児童健全育成事業 行事体験活動 クラブ活動 異年齢との交流 (実績: 306日、12,519人)	(実施内容等) 放課後児童健全育成事業 行事体験活動 クラブ活動 異年齢との交流 (実績: 302日、11,330人)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	・地域子ども・子育て支援 事業交付金						
	・臨時職員雇用保険料						
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値	306日 10,000人	306日 10,000人	306日 10,000人	306日 10,000人
			年度達成率	99%	99%	0%	0%
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	20%	40%	40%	40%		
	備考欄						

事業名	放課後子どもプラン推進事業	評価者 管理職 職氏名	児童センター館長	大水 麻理
		評価者 作成者 職氏名	児童センター係主査	武田 浩明

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	保護者が就労等により昼間留守家庭となる児童(小学生)	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説)	児童クラブ開設日数、児童数		
抱える課題やニーズ	留守家庭児童の安全な居場所づくり		① 児童クラブ年間開設日数	目標年度 令和元年度 目標値 306日 実績値 302日 達成度 98.7%	② 児童クラブ年間利用者数
どのような状態になることを目指したのか(意図)	児童の学校終了後の安全確保と異年齢者との関わりを通して自主性・社会性を養う。				
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	留守家庭児童の健全育成を図り、保護者の子育てと就労の両立を支援する。				
内容(どのような手段で何を行ったか)	児童クラブの開設	・開設日 月～金、休校日(土・祝・学校が特別に休みとした日) ・時間 平日…授業終了後～17:30 休校日8:00～17:30(弁当対応) 2クラブ開設(クラブ登録者数90名)			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	登録児童数は減少傾向にあるが、保護者のニーズは継続して存在する。事業を実施しない場合、児童の安全性が確保されず保護者も安心して就労できない。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	保護者が安心して就労でき、子どもの安全確保が図られた。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	児童センターで実施することにより無駄なく事業実施が可能である。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	年間を通して町内全ての児童が利用できる。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
保護者の就労等による登録児童数は減少傾向にあるが、児童が安心して過ごせる場の提供を図るため、本事業の果たす役割は大きい。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
登録児童数は減少傾向にあるが、保護者のニーズは継続して存在することから職員の確保により児童指導体制の充実を図るとともに、今後も留守家庭児童の健全育成を本事業にて進める。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 07010020

政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	8	子育て・子育ての充実	事 業 優 先 度		A	
単位施策	2	「子育て」支援の強化	政 策 事 務 分 類	1	単独自治事務(例規)	
事業名	児童ふれあい交流促進事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 年 課	7	児童センター	
事業主体	雄武町		関 係 課	5	保健福祉課	
事業指標	事業数、参加者数			12	教育委員会教育振興課	
事業目標	100回 2,000人		ハート／ソフト 事業区分	2	ソフト事業	
町民参加	有	事業への参加	関係例規・法令名	有	児童ふれあい交流促進事業実施要綱	
町民協働			関係個別計画名	無		

全 体 計 画		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	
計 画 内 容	世代間交流事業(乳幼児、保育所児童、高齢者)	世代間交流事業(乳幼児、保育所児童、高齢者)	世代間交流事業(乳幼児、保育所児童、高齢者)	世代間交流事業(乳幼児、保育所児童、高齢者)	世代間交流事業(乳幼児、保育所児童、高齢者)	世代間交流事業(乳幼児、保育所児童、高齢者)	
	体力増進活動 行事体験活動	体力増進活動 行事体験活動	体力増進活動 行事体験活動	体力増進活動 行事体験活動	体力増進活動 行事体験活動	体力増進活動 行事体験活動	
計 画 事 業 費	事業費(千円)	6,000	1,200	1,200	1,200	1,200	
	財源内訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	6,000	1,200	1,200	1,200	1,200
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,099	1,074	1,025	0	0	
	財源内訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	2,099	1,074	1,025		
関 連 事 項	特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等) 世代間交流事業(乳幼児、保育所児童、高校生、高齢者(長寿クラブ)) 体力増進活動 行事体験活動 (実績: 83回、1,826人)	(実施内容等) 世代間交流事業(乳幼児、保育所児童、高校生、高齢者(長寿クラブ)) 体力増進活動 行事体験活動 (実績: 75回、1,797人)	(実施内容等)	(実施内容等)	
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値	100回 2,000人	100回 2,000人	100回 2,000人	100回 2,000人
			年度達成率	90%	85%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)		全体達成率	18%	35%	35%	35%
			備考欄				

事業名	児童ふれあい交流促進事業	評価者 管理職 職氏名	児童センター館長	大水 麻理
		評価者 作成者 職氏名	児童センター係主査	武田 浩明

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	全ての児童、子育て中の親子	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	行事等の事業数、参加者数								
抱える課題やニーズ	子ども達が安心して遊べる場所が減少している。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	児童センターにおいて、健全な遊びを提供し、異年齢や地域の人々との交流を通して、社会性、自主性、創造性を養う。	① 事業数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>100回</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>75回</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>75.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	100回	実績値	75回	達成度	75.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	100回										
実績値	75回										
達成度	75.0%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	児童の魅力ある居場所となり、健全育成が図られる。	② 参加数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>2000人</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1797人</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>89.9%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	2000人	実績値	1797人	達成度	89.9%
目標年度	令和元年度										
目標値	2000人										
実績値	1797人										
達成度	89.9%										
内容(どのような手段で何を行ったか)	①行事体験活動	多種多様な行事を通して、幼児から高齢者まで幅広い世代交流を深め、体験活動を行なった。(こどものつどい、七夕、こどもまつり、冬まつり)									
	②体力増進活動	数多くのスポーツ指導を行い、体力増進を図る。一輪車、サッカー教室等に積極的参加がある。									
	③世代間交流事業	赤ちゃんふれあい体験、保育所訪問、高校生ボランティア、長寿クラブとの交流を実施し、子どもたちの体験活動の幅を広げる。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

概ね必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	子どもたちを取り巻く環境が変化する中、遊びの拠点となる地域の安全な居場所と交流を通じて、地域全体が子育て支援を行う環境づくりが必要である。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	子どもたちの交流の場となっており、事業へも積極的な参加があり、地域住民の方々も子どもたちとの交流を楽しみにされている。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		事業実施にあたっては地域団体との協賛やボランティアの協力により、様々な遊びや支援を効果的に提供できた。	
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制		
	<input type="checkbox"/>	人員削減		
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	<input type="checkbox"/>	その他

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		全ての乳幼児、児童、中高生の利用が可能である。	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある		
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない		
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	<input checked="" type="checkbox"/>	その他

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
地域の子どもの遊びの拠点として重要な役割を果たしている。貴重な異年齢との交流の場として今後も事業を進めることが適当と判断する。また、冬まつりを武雄市児童訪問の日程と合わせたことで、雄武町の特性を生かした事業交流をアピールできた。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
今後も魅力ある内容のプログラムを用意し、全町内の子どもたちや地域の方々にセンターを利用してもらい地域の交流の場となるよう本事業を進める。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止